

1 教育課程について — 教科指導力の向上を図る。選択と集中。

計 画	<p>①授業時間数の確保 ②授業公開週間、道徳授業公開及び研究授業、研究会の実施 ③加配教員の活用（数2名、英1名）、習熟度別指導の実施（実施率50%目標） ④支援教育（通級、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援も含め）の充実 ⑤目標に準拠した評価のあり方の検討と公立高校受験時の調査書への対応</p>
取 組	<p>①3学期末までの授業数予想では1年生が99%、2年生が98%、3年生が92%である。 ②授業公開週間は11月2日(月)～6日(金)で実施。展示週間も2日(月)～13日(金)で実施。 8月28日(金)には道徳の授業について講師を招いて全体研修会を持った。 全ての学級で道徳授業を公開及び授業参観(6日)。また1年生の各クラスでは町内教職員に向けての道徳公開研究授業を開催した。 教科学習では、10月13日(火)に国語科で公開での研究授業を実施。その前後には講師を招いて授業研究会を持った。11月11日(水)には社会科で公開での研究授業を実施。その前後には府教委から指導主事を講師として招いて授業研究会を持った。 ③数学と英語では加配教員を活用して習熟度別指導を取り入れてきた。その実施率は数学では約7割、英語では約4割の値が見込まれる。 ④校内にて支援学級在籍の生徒について職員会議にてその様子を交流してきた。 来年度入学・入級予定の6年生児童の様子について事前に校内にて情報共有を行い、全職員が分かれて小学校へ授業参観に行った。また、共有した情報を元に体験授業会を行った。 ⑤職員会議にて目標に準拠した評価のあり方を検討し、共通認識を持った。 職員会議等にて論議したうえで、高校受験時に必要な調査書評定について共通認識を持った。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H27年度、H26年度、H25年度）の肯定的評価の割合 「授業が分かりやすいよう工夫している」(79.4% 68.5% 68.5%) 「少人数授業は分かりやすい」(85.3% 78.4% 75.5%) 「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」(86.9% 86.2% 85.2%)であり、年次的に上昇もしており、概ね良好な結果である。 ○保護者の評価 「支援教育の充実に努めている」(83.2% 80.6% 77.5%) 「少人数授業、決め細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」(77.8% 70.0% 67.1%) 「放課後まなびや教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(83.4% 76.1% 72.1%) 「読書活動に力を入れている」(84.8% 80.7% 79.7%)であり、生徒からの評価と同様、年次的上昇と共に概ね良好な結果である。 ○総括的 朝の読書の時間には引き続き取り組み、あらゆる教科指導でも読書の啓発を行っていく必要がある。 新しい学習指導要領を念頭に置き、校内の研究会はもちろん、外部で行われる研修会にも参加をすすめ、教員の教科指導力の向上に力を入れていく必要がある。 校内の支援教育に対する考え方を整理し、組織的に生徒支援をすすめられるよう、校内体制の整備を図る必要がある。</p>
学 校 協 議 会 委 員 評 価	<p>・授業の工夫は良い結果を生んでいる。 ・計画に対する取り組みは年々成果が上がっており、大変評価できると感じられる。 ・3年生の授業時数確保に向けての努力が必要。 ・成績評価を絶対評価にするうえで、よりいっそう各教科での適切な授業の目標、内容、評価規準、評価基準の策定が必要であり、評価規準・基準の説明責任も伴っていると考える。誰もが納得し、生徒のやる気が高まり、その能力が向上するような授業と評価になるよう真剣に検討することが必要。 ・少人数指導や習熟度別授業については、保護者の評価も高く、生徒も安定して高い評価を下している。実際の成績推移を見ても顕著な結果が出ており、授業活動として高く評価できる。計画的安定的な取組になるよう、恒常的な教員の増員配置・加配を教育行政に強く要望し続けることが必要。</p>

2 生徒指導について — 生きる力の3欲の一つである群欲の育成を図る。原理原則。

計 画	<p>①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。</p> <p>②学校での生活環境を整える。</p> <p>③不登校0、いじめ早期解決をめざす。</p> <p>④明確な目標を設定し、クラブ指導を行う。</p> <p>⑤生徒会等生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。</p> <p>⑥生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。</p>
--------	--

取 組	<p>①毎朝の出欠状況を学年として把握し、生徒の存否確認を徹底した。 欠席が連続した生徒には家庭訪問で状況を把握し、適切な支援を行った。不登校傾向のある生徒については、個別の状況に応じた指導を行ってきた。それぞれの生徒の状況については毎週1回、各学年の担当者と管理職、こども支援コーディネーターで情報を共有する場を持ち、取り組みの方向性を整理してきた。</p> <p>②全員清掃を基本的に毎日実施。学期に1回の大掃除。PTAの協力を得ながらクリーン作戦の実施。社会福祉協議会のボランティアや教職員による草刈り。地域ボランティアによる中庭整備。教職員による学期に1度の全施設点検。</p> <p>③生徒間のトラブルはすぐに学年団で対応したうえで保護者に状況を説明し、解決を図ってきた。不登校状態にある生徒宅へはスクールカウンセラーや相談員を派遣したり、担任による家庭訪問を行ってきた。学年を超えた校内の全生徒の様子をこども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。また、一時期教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるようにカウンセリングルームを開設した。</p> <p>④年度当初に2・3年生へクラブカードを返却し、保護者も含めて入部の意思確認を行ったうえで活動をスタートした。スタートに当たってはキャプテン会議を経て各クラブミーティングを行い、活動目標と方針を明確にした。</p> <p>⑤10月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との懇談会を持ち、生徒の意見を大人が聞く場を持った。</p> <p>⑥各種学校行事を始め、3年生では修学旅行、高校オープンキャンパスへの参加、保育体験、2年生では宿泊学習、職場体験、1年生では人権校外学習、福祉体験、職場聞き取り学習を実施。</p>
--------	--

評 価	<p>○生徒の評価 ※(H27年度、H26年度、H25年度)の肯定的評価の割合 「学校へ行くのが楽しい」(86.7% 79.9% 81.8%) 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(89.1% 83.4% 79.5%) 「あいさつはできていると思う」(85.0% 74.5% 77.6%) 「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりできる」(88.4% 81.3% 80.3%) 「いじめや悩みや困っていることに対応している」(80.4% 73.4% 71.5%) 「将来の夢や目標を持っている」(66.4% 69.6% 69.0%) 「人の役に立ちたいと思う」(89.0% 87.4% 89.3%) 「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくらせている」(81.3% 72.1% 67.7%) であり、年次的に上昇もしており、概ね良好な結果である。しかし、「将来の夢や目標を持っている」の項目では、ポイントが低く前年度よりも下降している。</p> <p>○保護者の評価 「学校へ行くのが楽しいと言っている」(83.8% 82.5% 81.7%) 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(86.8% 83.3% 86.3%) 「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さなどの感性を育もうとしている」(79.0% 82.7% 82.2%) 「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(74.5% 67.1% 70.2%) であり、「感性の育み」以外は生徒からの評価と同様、年次的上昇と共に概ね良好な結果である。</p> <p>○総括的 「学校へ行くのが楽しい」と言える生徒の割合の増加は何ともうれしいことである。また、「いじめや悩み…」の項目でもポイントが大きく上昇したことは評価に値する。生徒相談週間、人権学習、道徳の時間の取り組みもさることながら、日常の教職員の声かけ、言動、接し方がポイント上昇につながっていると考えられる。満足することなく、今後もさらなる取り組みの積み重ねに励みたい。 一方、「将来の夢・目標…」がポイントも低く、前年度より下降した。「学校で考える機会がある」との回答率は上昇していることから考えると、取り組みの質を高めたり系統性や教科学習との関連性を深めていく必要が感じられる。</p>
--------	--

<p>学校協議会委員評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行為に対する指導の基準性と生徒へのフォローが大切である。 ・外部の専門機関との連携も視野に入れ、ていねいな指導が望まれる。 ・不登校やいじめ事象が多発していないこと、また表面化した事例に対して早期にしかもていねいに対応されていることが数字の上からも評価できる。専門教員（こども支援コーディネーター）の加配の効果が如実。常時定員内配置を強く要望したい。 ・「学校へ行くのが楽しい」の高評価は大変喜ばしいことである。今後も生徒個々との信頼関係をより親密なものとして、いっそう楽しい学校づくりをしていただきたい。 ・「将来の夢・目標」吉中生の一番の課題。入学時より将来どのような仕事につきたいかなどをじっくりと考えて、職場体験学習等に活かされるような工夫が必要。 ・全体的に、学校内での連携、学外からの人員の投入などから、生徒は大切に思われて支援されているという実感を得ていると思われる。また、クラブ等、学校運営への生徒の関与、PTAとの意見交換会などから、育てられているだけでなく、運営にも関わっている自負も育ってきている。さらに望むべきは、社会の中での一員としての自覚を育てることも必要と思われる。各教科学習の中で、生徒の未来を指し示すような示唆も必要と思われる。 ・欧米やアジア諸国と比べても、日本の青少年の「自己の将来」に対する否定的傾向は際立っている。もちろん日本の社会・教育の根本的課題としておとなの我々の大きな責任であるのだが、「志をもった自立した人間」の育成が教育のもっとも大きな役割だとすれば、まず何より子どもたちには将来の夢や希望につながる「自尊感情」「自己肯定感」が育成されていくよう導いていく必要がある。
------------------	--

3 学校の危機管理について - 5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰)

計 画	<p>①コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>②学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。学校協議会や関係機関との連携を密にする。</p> <p>③学校情報を透明化し、積極的に発信する。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費等の管理は関係諸機関と連携して行う。</p> <p>⑤生徒・保護者・地域への学校ルール of 指導と統一と徹底を図る。</p>
取 組	<p>①学校や地域等で発生した事象（いじめ等生徒指導上の諸問題、不審者対応、警報発令等自然災害等）は町教委や豊能警察・消防署に連絡・報告・相談を行い、適切・適時な対応を行った。</p> <p>また、教職員の職務遂行に当たっては教職公務員としての自覚を高めるための指導を適時行ってきた。</p> <p>②7月と12月に校内環境整備点検を実施。11月に照明器具・照度等の検査を行い、結果を町教委に報告。緊急傷病者発生対応の訓練を教職員で実施。</p> <p>③学校だより、学年・学級通信、保健だより、進路通信、図書だより、を定期的に発行し、学校情報の発信に努めた。また、学校だより、進路通信、保健だより、全国学力・学習状況調査結果の分析は学校HPに掲載。</p> <p>④諸費納入の課題への対応。町教委による諸帳簿の監査。</p> <p>⑤生徒指導関係のルールや長期休業中の生活のあり方などを生徒指導だよりで啓発。防犯教室、薬物乱用防止教室、ICT講演会、避難訓練の実施。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※(H27年度、H26年度、H25年度)の肯定的評価の割合 「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している。」(90.0% 83.45% 87.1%)「『学校だより』等を読んでいる。」(55.0% 53.14% 62.9%)「中学校での給食は適当な量と質である。」(21.5% 14.0% ---)であった。学校からの情報発信はあるものの、自分はあまり読んでいないという生徒が結構存在すると考えられる。生徒にとって必要な情報であることの意識付けや、読んだ結果プラスになった経験などを認識できるようにする必要がある。</p> <p>○保護者の評価 「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている。」(81.0% 79.3% 76.5%)「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている。」(89.5% 87.2% 86.5%)「子どもを通じて情報は保護者に届いている。」(76.9% 76.1% 78.9%)「子どもは給食を適切なものであると感じている」(17.4% 16.47% ---)「施設・設備の安全管理を適切に行っている。」(81.3% ---)「生徒の健康管理に努めようとしてる。」(81.7% ---)であった。学校から保護者への情報発信・提供は一定満足のできる結果となっている。これは担任等が日常の家庭連絡を丁寧に行おうとしてきた結果であると考えられる。また、今年度新たに設定した安全管理と健康管理の設問にも8割を超える肯定的評価をいただいた。</p> <p>○総括的 給食に対する満足度の低さは大きな課題である。抜本的なことを学校では取り組めないが、今年度意識して食育について取り組んできたことを、来年度は更に分厚く取り組めるようにしたい。また、生徒・保護者の給食への不満については、町教育委員会、中学校給食会へ伝えていく。</p>
学 校 協 議 会 委 員 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に対して適切な取組が行われている。 ・情報発信はていねいにされている。生徒に学校だより等を読む時間を設定してはどうか。 ・「学校だより」や「進路通信」など、学校からの情報発信については、保護者・生徒とも発信活動そのものは評価しているのに、子どもたち自身は余り目を通していない。内容や目的が保護者向けに限定されているのならやむを得ないが、それならむしろ子ども達に向けたメッセージ・語りかけ・アピールを盛り込んだ媒体・方法を考えるべきである。 ・給食に関しては、2年目の本年は前年度に比べて評価が上がっている。今後、少しでも食べ残しを減らしていく工夫が必要である。 ・給食については、必要な生徒にはお替り自由を可能にしてほしい。 ・異物混入については、保健所の意見はどうか。 ・給食については様々な制約・条件の下で業者サイドも苦勞されていることと思うが、保護者・生徒とも肯定的回答が20%程度という現実には、制度そのもの或いは制度の運営に大きな問題があり、抜本的な改善が必要であろう。

4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - ふれない判断基準をもつ	
計 画	<p>①授業参観と授業公開週間を実施する。</p> <p>②学校教育活動に地域のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学校の諸課題（学力・学習の充実、クラブの支援）の解決を図る。家庭が学力、子育ての原点であることを確認する。</p> <p>③小規模化に伴う学校運営のあり方を見直す。</p> <p>④吉川中学校区小中一貫推進会議特別委員会提言書をもとに具体的な活動を推進する。</p> <p>⑤学校協議会を学校評議会的なもの位置づける。</p>
取 組	<p>①4月18日、6月5日に授業参観、11月2日～6日に公開授業週間を設けた。 学年懇談会を各学年1回実施した。3年生は6月5日（修学旅行報告）、2年生は11月6日（職場体験学習の報告）1年生は11月6日（人権校外学習の報告）</p> <p>②地域の人材を活用し、放課後まなびや学習を実施。3年生では高校教員による出前授業。保育体験。2年生では職場体験。1年生では職場訪問。野球部、ソフトボール部、卓球部での外部コーチによる指導。</p> <p>③今年度をもって水泳部を廃部。女子バレーボールの新入部員の募集停止。一方で、中体連大会へ剣道、水泳で個人参加。</p> <p>④小中一貫教育の推進については、町教委主催の「小中一貫教育等充実検討委員会」へPTA副会長、教諭代表、校長で参加。</p> <p>⑤10月8日に学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H27年度、H26年度、H25年度）の肯定的評価の割合 「学校行事はみんなが楽しく取り組めるよう工夫されている」（79.1% 78.6% 74.8%）であり、年次的にも上昇傾向にあり、生徒が行事に前向きに取り組んだ様子が伺える。</p> <p>○保護者の評価 「学校行事に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」（90.4% 91.0% 91.7%）「家庭では子どもとふれあう時間をつくろうとしている」（94.6% ---）「家庭では進路について相談することを大切にしている。」（92.2% ---）「地域人材の活用に努めている」（77.9% 67.4% 66.5%）であった。 学校行事については、継続して高いポイントが出ており、保護者の学校行事への期待の高さが伺える。地域人材の活用についても年次的にも上昇傾向にあり、活用の定着と効果が上がってきているものと考えられる。今年度から家庭のおけるかかわりの設問を設定した。両方共に高いポイントであったことから、本校の保護者の家庭での教育力の高さが伺える。</p> <p>○総括的 学校行事において生徒が意欲的に取り組むことができ、成果を実感できるよう中身の充実を図っていくことが必要であると考えられる。もちろん授業の充実、生徒指導の充実は大前提であるが、そのことを基盤としたうえで、生徒が学校行事を通して周囲の生徒と切磋琢磨し、コミュニケーション力を高め、自己の成長をはかっていると考えられる。また、その学校での取り組みと、子どもの成長を保護者が実感したときに学校への期待と信頼をさらに高めていただけるものと推察できる。</p>
学 校 協 議 会 委 員 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の小中一貫教育へ向け、各小学校との交流をより深める必要がある。 ・保護者・生徒とも前年度に比べ肯定的回答が増えている項目が多く見られ、多岐にわたる教職員の努力に敬意を表したい。教職員が、自分たちの実践をどう評価・分析しているか、教育ビジョンや教育目標を共有できているかを知るためにも、教職員対象の自己評価アンケートもぜひ実施していただきたい。 ・様々な取組が少しずつ成果をあげつつあると思われるが、より地域との交流を図り、信頼されると共に開かれた学校づくりに励んでいただきたい。 ・吉中では、トータルで非常に良い教育をされていると考えられる。それだけに良い高校教育とその後の教育を受けてほしいと願う。進路指導に当たって、成績だけでなく、その生徒の将来を見据えたオーダーメイドの指導を期待する。 ・生徒数の減少により、人間関係が閉鎖的・固定化することがないように工夫する必要がある。他行との積極的な交流を図ることも必要。 ・職場体験や出前授業については今後も継続していただきたい。 ・寝屋川の中学生、川崎の中学生の痛ましい事件をふまえ、吉川中学校の生徒の誰もがそのような悲惨な事件に巻き込まれないよう、中学校でも随時、生徒へは防犯、非行などについて注意喚起をしていただ

学校協議会委員評価	<p>きたい。</p> <ul style="list-style-type: none">各先生には指導者としてふさわしい行動規範があると思います。喫煙や言葉使いについては、生徒の模範となるよう努めていただきたい。週五日制・授業時数の確保の中で、学校行事を精選していかなければならないのは理解するが、行事や活動の中で子どもたちが成長していく部分が大切だと思うので、従来あった球技大会や文化祭などのそのままの復活というのではなく、子どもたちの自主性や独創性を発揮させられるような企画がないものか。たとえば球技大会にしても生徒会や運動部主体で自主運営させてみるとか。教員の側が、選んで吟味して、失敗しないように完全プログラム化され、与えられたものを消化するだけの行事にならないように望む。
-----------	--